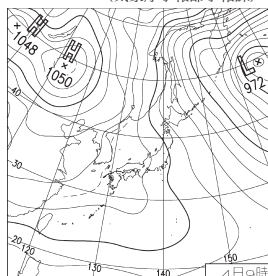


日々の天気図

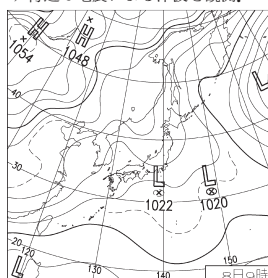
— No. 84

2009年1月

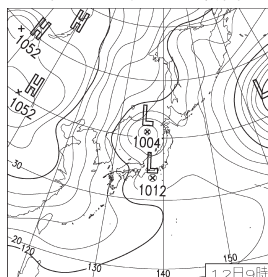
- ・10日、発達した低気圧の影響で北海道えりも町43.4 m/sの瞬間風速、
- ・10日、寒気の影響で広く日本海側で雪、兵庫県香住町86 cmの日降雪、
- ・29日～31日、湿った空気や低気圧の影響で太平洋側で大雨、鹿児島県奄美市名瀬133.5 mm、三重県尾鷲市125.5 mmの日降水量を観測。
(気象庁予報部予報課)



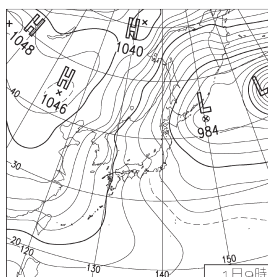
4日(日)ニューギニア付近で地震
北日本は冬型の気圧配置、日本海側は雪や雨だが次第にその領域も狭まる。東日本以西では晴れ。西日本は朝冷え込む。太平洋側でニューギニア付近の地震による津波を観測。



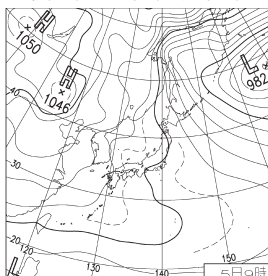
8日(木)東京でウメ開花
冬型の気圧配置が崩れ西から気圧の谷接近。西日本の太平洋側では弱い雨となり、その他の地方では概ね晴れや曇り。気温は3月並で、東京では平年より21日早いウメの開花。



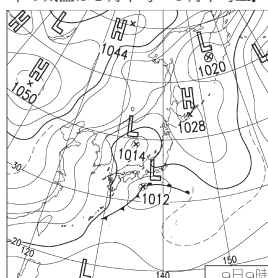
12日(月)都心に雪あられ
日本海には上空に寒気を伴った低気圧があり、輪島上空5500メートルには-37.4℃の強い寒気が入った。北陸や四国で最大瞬間風速25 m/s以上の強い風が吹き、東京では雪あられ。



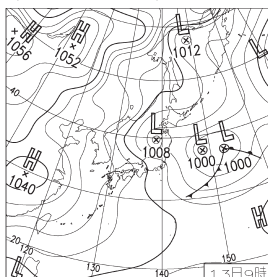
1日(木)熊本市・伊豆大島 初雪
冬型の気圧配置が続き、北～西日本の日本海側は近畿～中国の山沿いを中心に広い範囲で雪や雨。太平洋側は、東日本を中心に乾燥した晴天。熊本市と伊豆大島で初雪を観測。



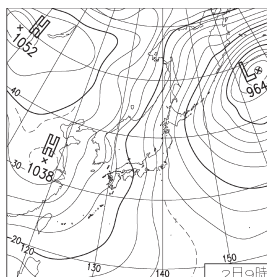
5日(月)穏やかに寒の入り
日本付近の冬型の気圧配置は次第に緩み、北日本の季節風も収まる。北海道や山陰では雨や雪のところあるが、その他の地方では概ね晴れて、日中の気温は2月下旬～3月下旬並。



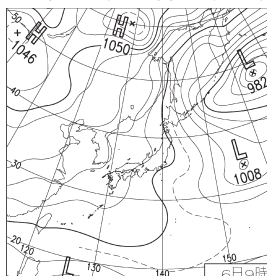
9日(金)東京都心 初雪
東日本の南海上に低気圧が東進。関東や東海は日中も気温が低く、冷たい雨や雪。東北北部や北海道では日中晴れるが、夜には雪。滋賀県彦根市で8ミリのひょう。



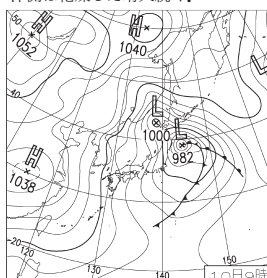
13日(火)太平洋側カラカラ天気
上空に寒気を伴った低気圧が東北を横断。東北、北陸を中心に雨や雪で海上は大しけ。一方太平洋側はカラカラ天気乾燥状態。関東地方を中心に最小湿度10%台。



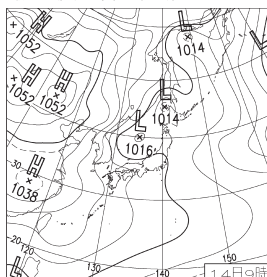
2日(金)那覇 ヒカンザクラ開花
冬型の気圧配置続き、北海道オホーツク海側から本州の日本海側にかけ雪や雨で風も強い。南西諸島は雨。その他は晴れ。東海以西は季節どおりの冷え込み。三宅島雄山に初冠雪。



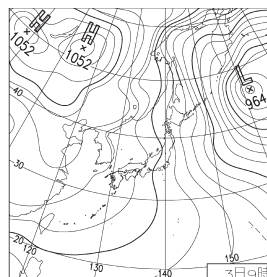
6日(火)各地で消防出初め式
北日本では弱いながら冬型の気圧配置で、日本海側を中心に曇りや弱い雪。西日本の日本海側や北陸は曇りや雨。他は概ね晴れ。東日本の太平洋側は乾燥した晴天続く。



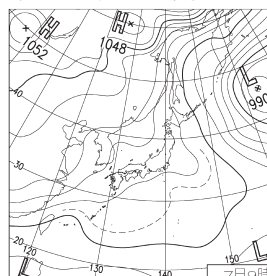
10日(土)北日本荒れ模様
発達中の低気圧が北日本の東海上を北上。北日本や北陸～西日本の日本海側を中心に風雪強まり、北陸～南西諸島では真冬の気温に。和歌山県潮岬と鹿児島市で初雪。



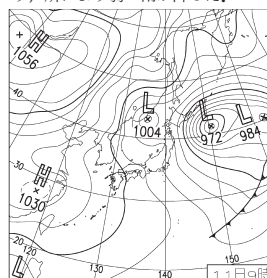
14日(水)つかの間の晴れ
日中一旦日射しの戻った日本海側も、低気圧や前線の接近・通過で再び雪が強まる。東日本の太平洋側は乾燥した晴天、引き続き強い寒気に覆われ、長野県南牧町は最低気温-20.5℃。



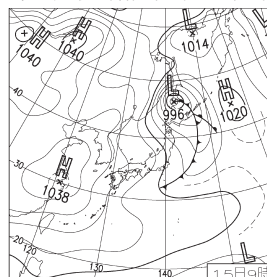
3日(土)春の兆し一歩一歩
北陸から北日本は引き続き雨や雪だが、冬型の気圧配置が西から徐々に緩み西日本の日本海側は天気回復。暖かさに誘われ愛媛県松山市では平年より9日早くウメが開花。



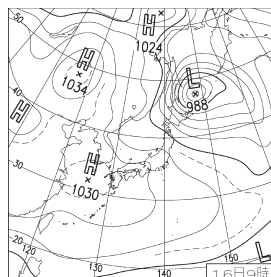
7日(水)東日本の乾燥続く
北日本では弱いながら冬型の気圧配置が続き、弱い雪。東日本～北陸は高気圧に緩やかに覆われて晴れた。西日本は弱い気圧の谷が接近中で曇り、所により弱い雨が降った。



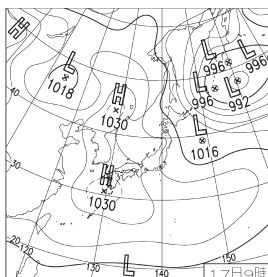
11日(日)神戸市 初氷
日本海北部の低気圧に向かって比較的暖かい空気の流れ込んだ北海道は最低気温が3～4月並。本州以南は西日本を中心に日中も気温上がらず真冬の寒さ続く。神戸市で初氷を観測。



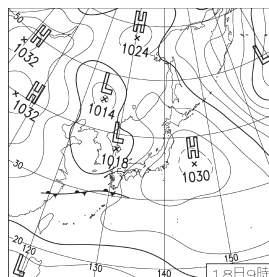
15日(木)北日本中心に荒れ模様
日本海側と北日本は雪と強風の荒れた天気。東～西日本太平洋側は概ね晴れ。北海道宗谷岬で日最大風速22.7 m/s。本州は最高気温が上がらず平年より2～5℃低い。



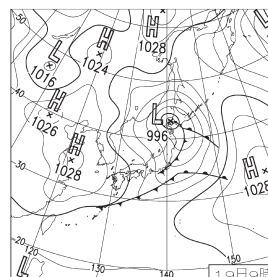
16日(金)西～東日本 高気圧圏内
北日本は西よりの強風続き、日本海側を中心に曇りや雪。黄海の高気圧に覆われた西～東日本は、太平洋側で晴れたが、日本海側は気圧の谷の影響で曇りか弱い雨や雪。



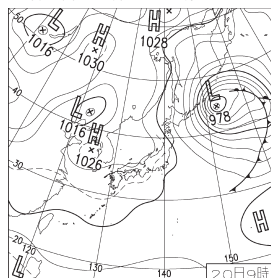
17日(土)センター試験初日
北日本は冬型の気圧配置。北日本と本州の日本海側では雪や雨だが次第に弱まる。その他は九州付近の高気圧に覆われ晴れ。朝方は西日本中心に冷え込んだ。



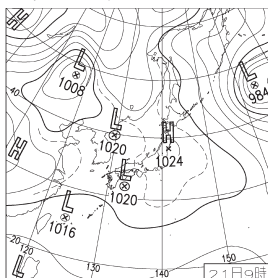
18日(日)列島は気圧の谷の中
南北に連なって気圧の谷が接近。日本海側は前線の接近に伴い雨や雪。長崎県諫早市では1月の記録を更新する28 mm/1hの強い雨。太平洋側でも一時的にカラカ天気解消。



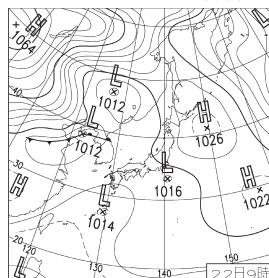
19日(月)全国的に暖かな朝
低気圧や前線通過後、冬型の気圧配置強まる。太平洋側の雨は朝まで。和歌山県串本町で42.5 mm/1hの激しい雨。朝の最低気温は、全国で3月中旬～4月下旬並の暖かさ。



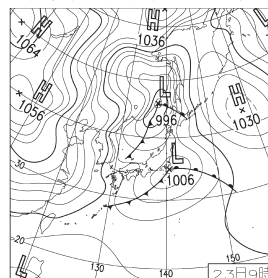
20日(火)大寒
冬型の気圧配置は北日本中心。西日本は高気圧に覆われる。北陸から北の日本海側は雨や雪。西日本は概ね晴れ。朝の気温は全国的に2月下旬～3月下旬並の所多く暖かい大寒。



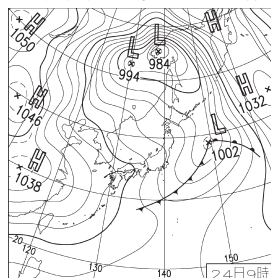
21日(水)短い周期で天気変化
北日本は日本海側を中心に所々雪。本州付近は初め移動性高気圧圏内、しかし気圧の谷の影響で晴れの範囲は狭い。四国の南海上を低気圧が東進し、西から次第に雨。



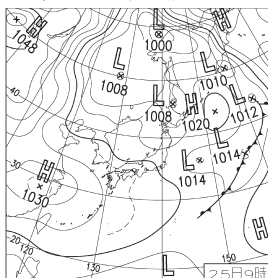
22日(木)南岸に弱い気圧の谷
本州南海上を小さな低気圧が通過。別の低気圧が九州の南海上を東北東進。南岸では雨が続いた。一方、北日本は北海道の東海上の高気圧に覆われ、昼過ぎ、所により晴れた。



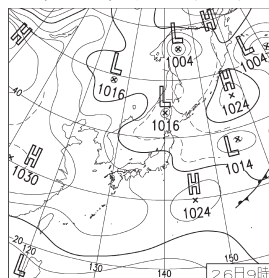
23日(金)真冬の北海道に雨
本州南岸と日本海を前線に伴った低気圧が北東進して列島通過。北海道では最高気温が平年を10°C以上上回り、各地で1月の極値を更新。標高の高い山を除き雪でなく雨。



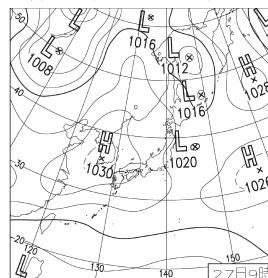
24日(土)真冬の気温に逆戻り
強い寒気が西日本から一気に流入し、気温急降下。日本海側中心に広範囲で雪となり、九州北部は平地でも積雪。最深積雪は山口市12 cm、福岡市6 cm、千葉県銚子市、千葉市で初雪。



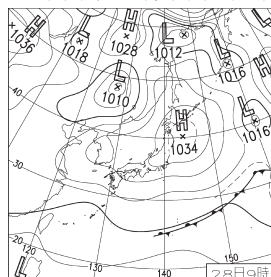
25日(日)寒気にどっぶり
低気圧が北海道付近を通過し、北日本と北陸～九州の日本海側は雪や雨。関東中心に太平洋側は晴れ。日本列島はこの時期らしい寒さ。横浜で初雪。



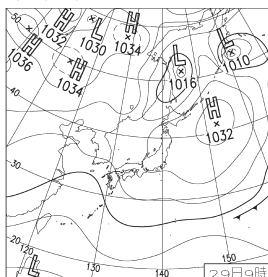
26日(月)西日本の雪は雨に
引き続き気圧の谷や寒気の影響で日本海側は雪や雨。大陸から高気圧が張り出し、太平洋側は初め晴れたが、上・中層雲の通り道となった西～東日本は時々曇り。



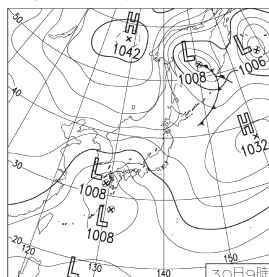
27日(火)日本海側の雪夜止む
寒気の影響で北海道では雪。その他の地方では次第に移動性高気圧に覆われ、太平洋側では晴れて乾燥した状態続く。日本海側でも夜には雨や雪は止んだ。



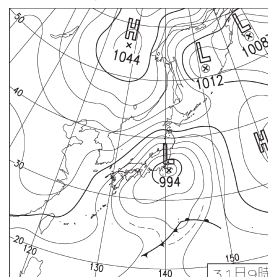
28日(水)広く高気圧に覆われる
日本列島は北日本に中心を持つ高気圧に広く覆われ晴れまたは曇り。九州南部から南西諸島にかけては雨。北海道は陸別町で-25.6°Cの最低気温となるなど寒い朝を迎えた。



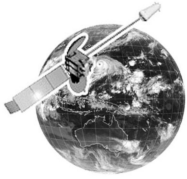
29日(木)屋久島 季節外れの大雨
終日曇りや雨の関東を除き、近畿～東北は日中暖かな晴れ。最高気温は全国で3月～4月並。九州や四国、中国は気圧の谷の影響で雨。鹿児島県屋久島町小瀬田で74 mm/1h。



30日(金)全国的に暖かい朝
西日本の南海上を低気圧が東北東進。雨は西日本で朝降り出し夕方東北まで拡大。鹿児島県名瀬市で68 mm/1hの非常に激しい雨。宮崎県日南市油津の最低気温15.8°Cで5月中旬並。

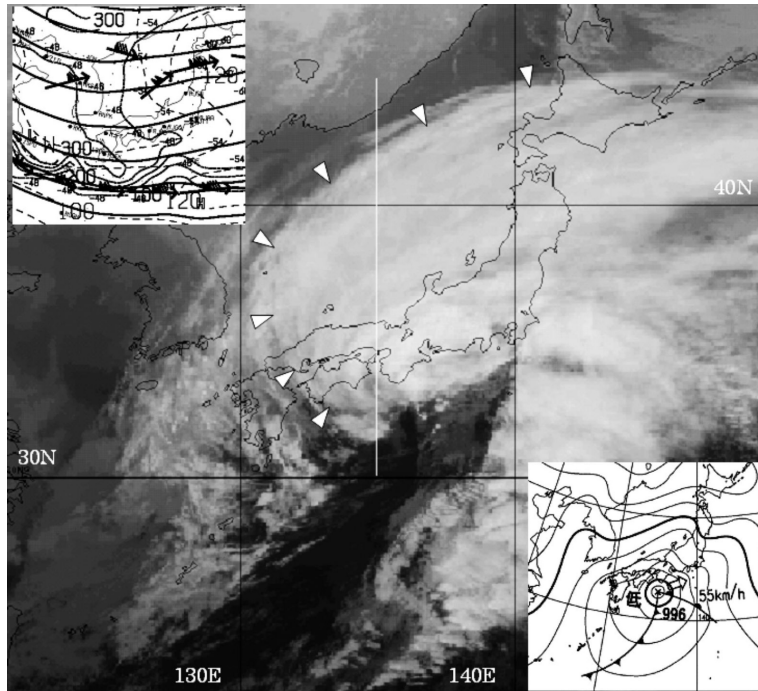


31日(土)寒中に大雨
低気圧が発達しながら本州南岸を通過。北海道や東海の一部と九州南部、南西諸島で晴れた他は曇りや雨。東北は湿った雪。時ならぬ大雨で、日降水量の1月の極値を更新した所も。



今月のひまわり画像—2009年1月

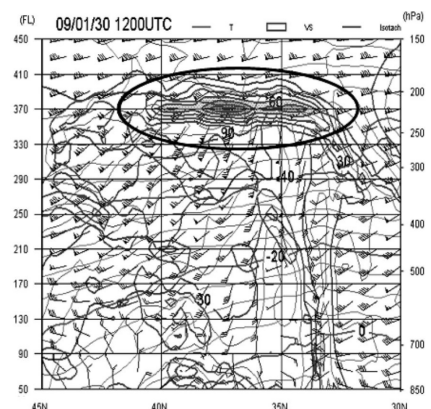
日本の南岸で発達した低気圧と乱気流



第1図 2009年1月30日21時の赤外画像，200 hPa 高層天気図（左上），地上天気図（右下）。左上図の矢印はジェット気流に対応した強風軸。

1月30日から31日にかけて，低気圧が発達しながら日本の南岸を通過した。第1図は30日21時（日本時間）の赤外画像である。低気圧の中心は潮岬の南にあり，紀伊半島周辺では対流雲が発達している。低気圧西側の西日本付近では，分流したジェット気流が北に向かって流れている。低気圧周辺で上昇した雲はこのジェット気流に乗り，高気圧性曲率をもつバルジ状の上層雲（第1図の△印）として，日本海から北日本を広く覆っている。低気圧が発達しているときほど，この雲パターンが顕著に現れる。この発達した低気圧により，30日から翌日にかけて，東北地方と関東甲信地方を中心に大雨となった。

また，西日本から日本海中部付近では，分流した南風のジェット気流とその上空の西風との間で鉛直シアが非常に大きくなっている（第2図の円内；最大で24 kt/1000 ft 前後，1 kt=0.51 m/s）。このようなところでは，航空機は強い乱気流に遭遇しやすい。この日は，幸いにして強い乱気流の報告はなかったが，第1図の衛星画像で見られるような上層雲の雲パターンが現れるときは，要注意である。（気象庁予報部予報課航空予報室 大野滋規）



第2図 同日21時の毎時大気解析図。135 E（第1図の白線）に沿った南北断面。風，鉛直シア（点彩域；15 kt/1000 ft 以上），等風速線，気温。